様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ６ 月 ２８ 日現在

機関番号：８４６０４
研究種目：挑戦的萌芽研究
研究期間：2016～2018
課題番号：１６Ｋ１４３６９

研究課題名（和文）日本と中国における古建築用語の相互訳および英訳を通した比較研究手法の創生

研究課題名（英文）Creation of comparative research methods through translation of historical architectural terms in Japan and China

研究代表者
鈴木　智大（SUZUKI, Tomohiro）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員

研究者番号：６０５３４６９１

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、日本と中国における伝統的な木造建築に関する歴史的な用語の比較を通して、東アジアにおける建築文化の特質を見出す研究手法の創生を目指した。
本研究における成果として、両国の木造建築において構造的に重要な役割を担った「貫材」に関する論考をまとめた。両国における「貫材」をあらわす用語を整理することで、その時代的な変遷を明らかにした。さらにその作業から得た問題意識を現存する建物にフィードバックすることで、その具体相を知り得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本課題においては、木造建築の主体構造部に関する用語の整理を通して、両国における貫材の特質を見出すことができた。さらにこれを現存する遺構にフィードバックすることで、新しい研究の糸口をつかむことができた。本課題で得られた手法は、主体構造部のみならず、組物、屋根、基礎、彩色、塗装、金具など、建築を構成するあらゆる要素に適応することで、新たな成果を得ることができるだろう。

研究成果の概要（英文）：In this study, we aimed to create a research method to find out the characteristics of architectural culture in East Asia by comparing historical terms about traditional wooden buildings in Japan and China.
As a result of this research, I have put together a discussion of "Nuki", which played a structurally important role in wooden construction in both countries. By making use of the term for "Nuki" in Japan and China, we clarified its historical transition. Furthermore, I could know the specific phase by feeding back the problem equation obtained from the work to the existing building.

研究分野：建築史学

キーワード：木造建築　東アジア　営造法式　工程做法　相互理解

１．研究開始当初の背景

東アジア木造建築史の基盤構築　社会的に東アジアの交流が活発となり、歴史学研究においても東アジアの視点の重要性が謳われ、建築史学の分野においても、木造建築文化をともに持つ、日本と中国に関する比較研究が積み重ねられてきている。代表者・分担者もこれまで両国に共通する寺院建築の比較研究を通して、建築を社会的な側面から捉え、また木造建築の架構の比較研究を通して、建築の構造的な発展とその相互関係を捉えてきた。本研究は、これらと並行しながら、建築用語の展開という視点から、包括的に木造建築史を見直す試みである。

着想に至った経緯　代表者・分担者は、中国建築史を日本語で記述する困難さ、日本建築史を中国語で記述する困難さを経験しながら、日本および中国の研究成果を互いに共有するための活動も積み重ねており、比較研究のための環境が未整備であることも痛感してきた。

本研究の学術的背景　近年、日本・中国両国では、『日本建築辞彙〔新訂〕』（中央公論美術出版、2011 年）、『《営造法式》辞解』（天津大学出版社、2010 年）、『中国古建築名詞図解辞典』（山西科学技術出版社、2011 年）など、古建築に関連する用語の良質な辞書の刊行が相次いだ。本研究は、これら先学の蓄積を絶好の機会と捉え、用語の比較研究をおこなうことで、建築の社会的な側面と構造的な側面を関連付けながら、両者を位置づける挑戦的な試みであり、東アジア木造建築史を紡ぐための基盤を構築することとなる。

２．研究の目的

本研究は、日本と中国における伝統的な木造建築に関する歴史的な用語の比較を通して、東アジアにおける建築文化の共通性、両国の建築の発展の特質を見出そうとする方法論の創生を目指すものである。

３．研究の方法

両国の古建築用語の相互訳をおこなうことで、共通点および各国の特質を見出し、さらに英語訳をおこなうことで、用語持つ意味を客観的に評価する。さらに、翻訳を通じた問題意識の形成・蓄積を通じて、論点を抽出した。

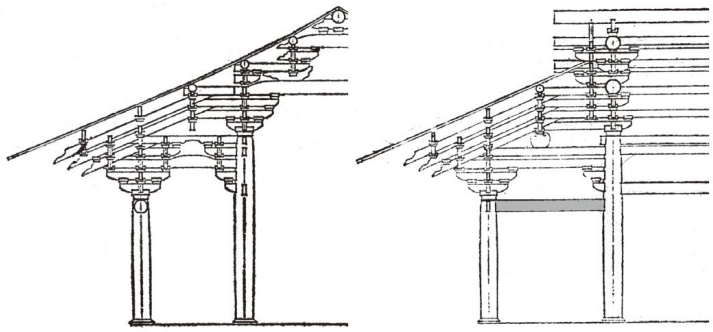
研究の最も基礎的な作業として、各国の用語を整理した。対象は、造建築の「A 主体構造部分（中国の大木作）」各約 700 語と「B　細部意匠部分（中国の小木作など）」各約 300 語である。本作業において主に参照したのは、近年刊行された、以下の文献である。

日本建築：『日本建築辞彙〔新刊〕』、『建築大辞典第 2 版』（彰国社、1993 年）。

中国建築：『《営造法式》辞解』、『中国古建築名詞図解辞典』。

４．研究成果

両国の木造建築において構造的に重要な役割を担った「貫材」に関する論考をまとめた。中国と日本における「貫材」をあらわす用語を整理することで、その時代的な変遷を明らかにした。さらにその作業から得た問題式を現存する建物にフィードバックすることで、「繋貫」の出現と変遷の具体相を知り得た。研究手法としての妥当性を証明する点においても重要な成果である。

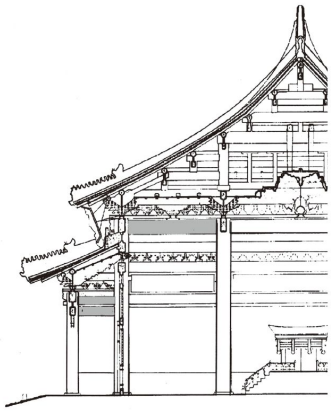


梁行断面図　　桁行断面図

華林寺大殿

（北宋・964、福建福州）

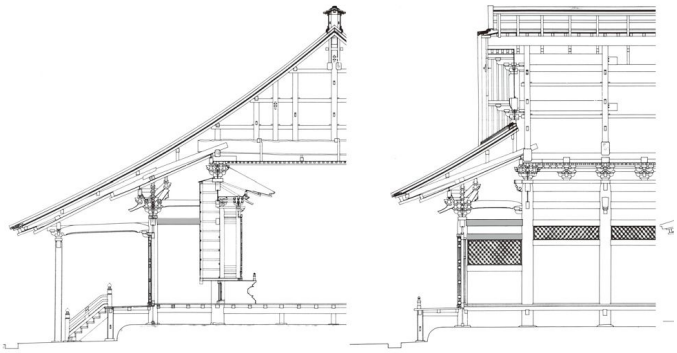
図１　中国北宋代における繋貫



故宮太和殿

（清・1695、北京）

図２　中国清代における繋貫

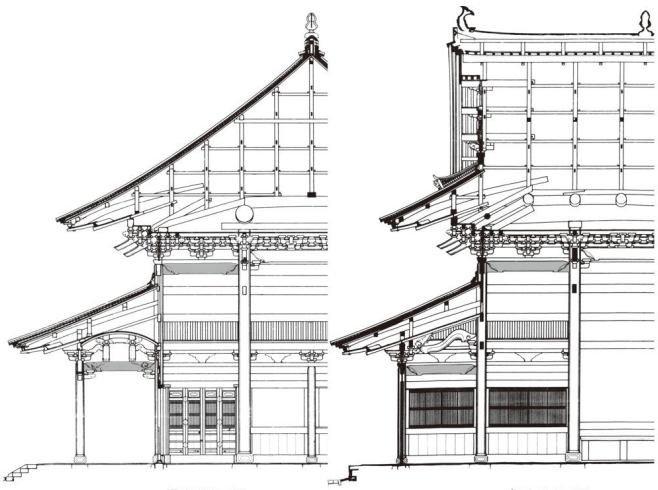


梁行断面図　　桁行断面図

鑁阿寺本堂

（室町・応安元年 =1299、栃木）

図３　日本室町時代における繋貫



梁行断面図　　桁行断面図

萬福寺大雄宝殿

（江戸・寛文 8=1668 年、京都）

図４　日本江戸時代における繋貫

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　１　件）

①鈴木智大 著、唐聡 訳、包慕萍 審訳「日本佛教寺院建築之類型和様式的意義――以構建東亜木構建築史為目的」（和題「日本の仏教寺院建築における類型と様式の意義　―東アジア木造建築史構築のために」（『中国建築史論彙刊』15、清華大学出版社、2018 年 5 月、pp.51-60、査読あり）。

〔学会発表〕（計　４　件）

①鈴木智大「東アジアの歴史的禅宗寺院における座禅空間」（『聞慶瞑想村造成のための国際学術会議』国際会議、韓国仏教歴史館、韓国ソウル、2016 年９月 11 日、pp.104-118、招待あり）。

② SUZUKI Tomohiro “What Did Chinese Chuancha-fang Influence the Timber Architecture of East Asia” ISAIA2016, Sendai Japan, 2016.9.22, pp.1006-1009, 査読あり）。

③鈴木智大「日本と中国における繋貫の出現と変容にみる東アジア木造建築の変革」（関西建築史研究会、京都、2017 年 9 月 30 日）。

④鈴木智大「中世～近世初期の日本における建造物修理の技法とその意義」（2019 年 3 月 16 日、メンテナンス研究会）。

〔図書〕（計　２　件）

①SUZUKI Tomohiro, La morphologie et le sens de l'architecture zen',“Idée d'architecture médiévale au Japon et en Europe”MARDAGA (Brussels, Belguim), 11,2017, pp226-237.

②鈴木智大「日本と中国における繋貫の出現と変容」（『建築の歴史・様式・社会』中央公論美術出版社、pp.423-439、2018 年）。

６．研究組織

(1)研究分担者
研究分担者氏名：李　暉
ローマ字氏名：（LI, Hui）
所属研究機関名：奈良文化財研究所
部局名：都城発掘調査部遺構研究室
職名：アソシエイトフェロー
研究者番号（8 桁）：30772751

(2)研究協力者
研究協力者氏名：丁　垚
ローマ字氏名：（DING, Yao）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。